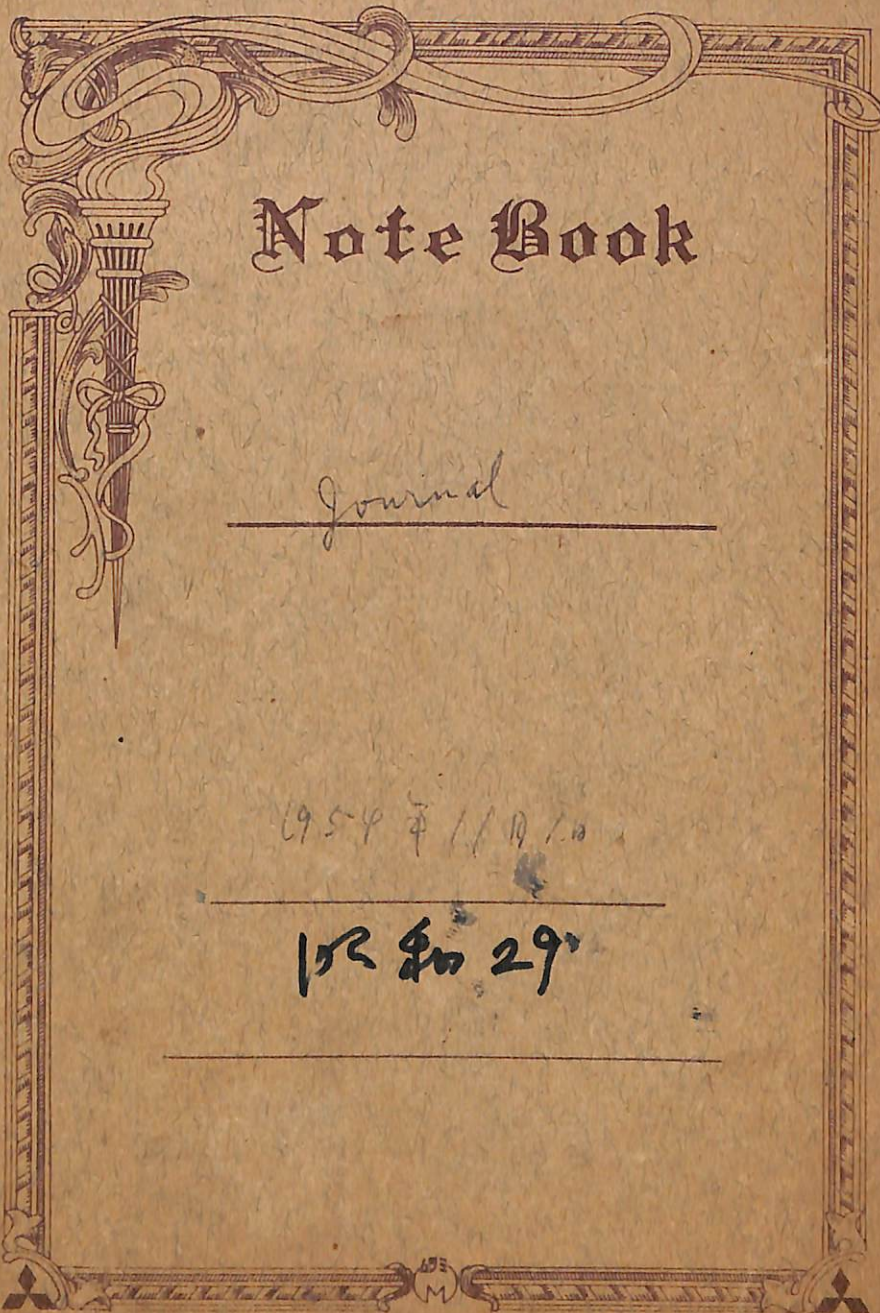




Note Book

Journal

1954 7/1/10

1st 29

F
A
3

昭和 29 年

11/1/10 登校 10.30. 久美子と同車、1,000 円を以て月謝すかし。蘇東吸「わし、梅英
と漢文 print しえかば」湖東の電報、14.00 近鉄の駅にて会ふべし。京都交通
の 1 年級生を探せし 13.00 すぎに来る。出て又久美子下車、誠近書房でし。角川全書。
15. 和詩集「47 (280)、買ひて湖東の会へは」義弟の嫁世話せよと。別れて大福寺
へ 14.45 に着く。誰もゐず。15.00 すぎ宇屋、平中夫妻、湖田、植津の諸氏車7、羽田
夫妻も来るといふに待つて回向、花もすむに僕へあしは誰のしむらん。16.30 羽田
帰校、1 年級へ、2 年より帰宅、(丸より手紙、公式でなき見合ひしむとのこと、近田家
へ電話すかば又君帰宅しえらふ。池田の直居上役と。池田のすべて相便せよと)山
本と津子来り、最中 1 篇号れし。帰れば「千草」の手紙、丸山と代「ワカ」中同封、蘇東は
吾をとりとり、一度千草と行かんとすはれしと着物石く固る故、我の上をいふがとせ。
けの羽田のせは「今西春紅氏の遺志を代りて天理大へ行く」といふ。

20 登校めん、電話して千葉の千鶴のこゝへ。陽生千葉より電文に「来な」とある。11和
登校、やがて路君あり。11月の天津大会の上洛せずと、色々話せしむる。國文學史の編輯
やつて出、省線への人々をせしむる。千葉行きのついで、16、17日都着。吉野雪舟の月事より
つとめし金蓮谷生元のなかば、長尾良も勤める。奥西保男帰ると、前日に在りたるまゝ
上京のこゝに伝言せし。南加文得氏に古代北方文化の研究¹もの。社説¹10月号ものに金蓮
谷先生、さき河東三條、喜豊園¹のつた、旗田顯、鈴木信、日野南¹、渡部武、藤野
彪、青木富太郎の客あり。中山八郎氏も來り、20、30先の席より、²と及妻房より朝鮮拾碎
典¹9、1,300冊あり。³近世劇大系¹明治以来の演劇全集を記す。本末地編¹ Giles、漢
言無解自明¹等書で揚名。陽生の手紙にその足方へ話した。千葉は hysterie のやうな
滑稽子といふものがあつたといふ。

3日 10.00 家を出て大正。中へ逢ひ清水先生に会ふ。叔母に会へば「お野々」に逢ふにわが「振職」の事言ひ
口裏に4葉のいふ事し。此世の事には聞きしに要らず。城平が父にへて。南月のお母来り。出て馳い昌

11月10日 9:30 學校、^{ルハ}五部⁷字し、11.の石炭鉱山の会。今西春秋とて蛇火の推薦^ニはた
くたる。college hour に在りて電⁷の視察、おきて町人文化の台⁷、おきて研究室に隔れおき。
向原三郎君来りて礼置をせたり。岩橋(旧奥村)姓と出て着席前よりたし(130)、幸
良着。14.00、博物館、正倉院展見了、王理図書館も參觀して西村、富永、木村、3人と
しぬ。館内をかし通りし他を見ず、岩橋氏と(胡)⁷まじりて、しるをひ、十路勝年君に電話す
れば来た。行⁽²⁾~~きて~~北野清一氏へ行つと云ふに後急がし。また下りて野村家の前にて、その肉の
煎田正男氏の乳衣には防護衣を着たは必^ルだうらし。出で18.20の滋養食行 bus のなり
東京に降り、tobacco 屋に入る中ば、そんで、夫人と2男あり。夫人はせられおんわりの、陸隊
連隊会をしめたり。海20分待ちをしのいで、19.50の bus にておち泊る。21.00 帰宅。堀
山第三氏より天龍林業高校に就職也。

11日 8.50 ~~家を出た~~ 家を出たが睡眠不足でつらし。西條嬢 12月19日 筆式と、楠戸生か
来る。来週木曜に来校と。石浜先生に Wigan 文書をつたかへ伺ふ。靴の破損直しにバ
イエルで下車。1時間かゝる。同向に元海堂で「文学ブルバの題外(160)」今有観(150)買ふ。
帰つてゐるが10分。元々社で「山崎書信」の送金受取つし。大塚幸次郎の芥川研究に1月
のし故 11月末日までいふし。文藝春秋南の黒澤介氏の「前川邸の怪談」は友人の故
郷の電報きたし故 帰ると。元々社で 4.608-691=3,917 来る。

12日 朝食後5時と寐し。10.30 家に出。11.30 登校。小野和子と再々電話した。楠戸、信田2名と西保君と會言り。昼食時小野君と500円石炭をとり視て渡す。15.30 帰宅。足田自治と久々會ひし。岩崎昭子と14日(p)14.00 祖國社へ。辻の電報。日曜後帰り来た。

130 家具、角材等の増減と印税変化。増減の率、足率、重労働の割合、材料の増減の割合、上りの割合、下りの割合。

14日 11.00 家を出、坪井王訪乙。打本屋智乙の衣服を試験に与え、京都府立女高乙

親が母の如く、南山女学校。省俸にて京都、吉野書房の如く、19.00、岩崎信子にて、歩
て至、猶作、觀面、西の如く、預金、石の如く、25.00、支那、石の如く、15.00、御所、石の如く、10.00、
羽田、石の如く、10.00、學生、石の如く、10.00、Uigur 文庫、石の如く、10.00、東方、石の如く、10.00、
うし。出、母、石の如く、10.00、石の如く、10.00、石の如く、10.00、石の如く、10.00、石の如く、10.00、
19.00、石の如く、10.00、出、京都、石の如く、10.00、石の如く、10.00、石の如く、10.00、

15日 10.00 出て川端の古本屋にて査立部「支那伝説集(100)」¹「山西學術雑誌(30)」¹「清陵
李の壁画(90)」¹。山前の事務所の中から手紙を7つと3つと。これに出て coffee を2つ。あ
りて「華文堂」中国文藝報の代り。劉右銘「王安石(60)」¹「湖南著述目録(80)」¹等。詩
木為所「白雲天の解」¹「方言」¹他1冊を学校へ送らせ。寺町を下り。郵便局にて島
の人生(20)」¹「大塩平八郎(60)」¹。2冊は後者指して、うかし。14.30帰宅。16.10 出て天正不
¹「田」にて小野和子訪ねし不在。わが視つた。学校へ2つ、うかし。2冊は天正不¹と合ふ。18.00
富貴をうかし。換算せし中野ト子来り。これに出て「観音」¹。19.00 電話してうかし。18.00 山西
雑誌のへが来り。12月19日の式の出る。昨日寺屋町から大正漢文名簿をうかし。

16日 11.00 今東支那の青島に到着。昼食の後、干端生父の墓に参りて arbeit
してあり。山形信江へ便りありし。國様より2時由目まで説教し、幸にカ野郎と云はれ、其迄
を乞ふ。祝ひありか。西村博士夫人より神經衰弱云々と。津熊氏より子孫の件の子
嬢の事あり。昭和2年生まれ、身長5尺3寸。カ野郎と云ふ、其の由は祝ひあり。
之替へく。夕飯あり。情を盡し、知又も挨拶して帰る。夜、吐く

17日 パル食品工学校、傍田、宮口、三村 3生と天王寺町のりお世。ヤク中、牛乳吐きもせずし、此島に下車。田家の寄つて姉君の卒業のりお世。定田生に送られて出、学校へつた。college-hourの中村祐吉氏を話さず、陸直命せられ、中生も食はす(妙に)「楊貴妃」の中入れはれぬ。14.00より南校との連絡会、周田副、吾沢洋平の2先生の外、佐宮の漢中君来り。小野和子来りて少伝ふ。17.00村へ帰宅。平凡社の「世界大百科事典」の Amursana 200~200条 11月末日迄に

11月8日 登校。歴史の時向 復習す。29時休む者多く、Arbeitする也。森田外中へ西保
嬢に電話。楠戸は basket-ball の試合の中である区路也。14和下一層の会ふ也とす。
(中村祐吉の授業を毛見しん 2人の対談講。中野、操江2人共々)。千端、中西、小
林了兄とも来る。14の出で二層の中へ basket の4人も會ひ、何日かといふ也。なか
てまゝ西保君と4人にて又喫茶。荒木新夫の中へ coffee をいさせ、19日と和歌山商工会議
所の披露の中へといふ。(中野和子児玉君も来りて會ふ)。別れて天牛商店へ中へ奈
良殿古墳墓表⁷(80)里(中野山平君も會ひ、29日の礼書)澤宅。在尚淳三郎エハ
カヤ、千武隆にも改め也。

宅すれは千草江、さうだか。蒲池氏江、伊予の建碑式に2010の雲仙号むか。同行也か。

母をゆく（住吉区役所の中山庶務課長佐藤に電話して今朝 Arbeit がある
一應履歴書に記入）。在りて父君（母君に言ふ）と、家の中へ入るべくあるべく
と、（父へは言ひて帰る。（父は飯治君の清書が、明日送らん）。湖岸に電話して各別
館にて書合せんと父へは言ひて。（帰途藤下生に会い、要内へてハ警視庁へ行く
す）と、夜に父ハトと揚子江に 588 枚を包封。父は東京研究（374）第 3-70 号
也。

1. 8. 10. 12. 14. 16. 18. 20. (120)

12月3日 10. 入塾校の逢、東京山書店の寄、東南アジア文化圏史(100)⁷、ニエーデル(100)⁷、10を神話
の研究(70)⁷、和蘭の東南アジア経済概史(50)⁷、宝庫スラウ全貌(50)⁷、東洋の古代芸術(30)⁷と
買ひて置く。(1123.000 倍配子の倍々也)。漢文すまじ小林生巧 京文に校抄し、段系はたての
諸本を1.100と改めしむて古田に礼なむて置く。ゆゑて来し地野雅子の 書類受取、今東
光氏の伝言を本村静子に電話でせし、山形語学に10月12日迄在へ紹介氏の電話し、姫松
に7来るまで ~~volley~~ volleyballの在様を、寛く1試合をせしめ、相違とせつて2-1で勝
つを見て決勝です。今山主来、久美子の主けは「肺大し」となく、盲腸の痛着手術をせ
ん⁷と。湖東のゆきて主けは、東京へ向合せつと。帰途、守屋君に河田先生との学友。河田
氏の大阪書籍の出勤のclass会出らむと。山田暗蔵の先祖をうけつと。

4日 10.00 家を出。山手事務所の事務11.00、退社後山手山手会館中、依瀬と話し、
来し山手と一会し、子退社後の中々藤下区長のArbeitの事、依瀬の津熊家の事
へお断り、来合此藤下君よりお断り。藤下君の来りお断り。藤下君の来りお断り。藤下君の来りお断り。
夜のclass会の山手山手はこれ。梅下、大田、藤田、白井、肥下、伊野に電話し、お断り
え、依瀬とnice-curry食ひて、角のルーウ博物館¹見て中々お断り。藤下
の品物お断り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。
橋下の古所にて地印、藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。
の要り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。藤下明断り。

即也。17.30 上南会。在安宅足、山形、侵野、後藤、白井、山崎、井上、榑、坪井、と我々の文甲記井、田中(前田)政雄、江馬、坂井。17.00 全在山形おとしし(今之江崎2923 200万円入し)。出て大隈駅まで車(45 旭屋にて宮津、大隈)買ふ。(11歳愛和幼稚園の成尾院長の会場でなし不在なり)。

12月5日(日) まっ漁芸会 8.30 まで 信託子早く出て行く。津熊家の電話し、14.00 までと
し ④に西佐嬢の 匠沖、小野 2 名を 4 席に頼む。呼ぶはらぬと。十野和子に、大
江和母へ 我々の 胃通し相談せしむるんと止められし。大午前の PTA 有会 300 人
出せと。13.00 出て姫松下車。八尋生馬やしも下宿生家留守。津熊家にては父 ④ 取和
子嬢) やまさんせうでなま探子。出て山手信江訪ふし山手陽子の踊り足りせし。父君と
話せば、京城大出しと。社会にて 18.30 信託帰子まじりきり出て。天正茶屋のうみへて伊
奈花子氏の会。桑永武太氏へ礼いかし帰る。天王寺の市電にて暗い道にて下車。鳥
生生ん会。就職者へは「まろは」ん来すと。批答駁前で「しよオ治家」と奥の細道
買ひて帰るすれ「前」の「Heine」3 月 3.000 の印紙来る。

6日 朝探検し、12.00まで合入主、休憩もせず。マフラー(500)履上りて見玉町の
会へば和子君来ると、呼おして待す。思ひ召の2つ向うと出召の2つ有信、15.00の2人帰
す。やかて車し姉君の控おし、佐治金屋の中へ控を不仕、公衆電話を接しせしむ
け、十人まで来て学校。salary 送る。前不仕の電話してせしむ。薪取のする日とす。
(4日前の第存信接会にエカは上平を、辞表出せし) には厚らす。柳井より電話、急
に来しや来ると。合へ、三村、藤田2生推薦せしむ。山本信記の万葉集2冊せり、今
りしをい、久美子と話し、帰りに来て瀧下生に留守とせ、漢文、すめて1人再拾四拾せと来
る。柳井君来り、2つ向のtaxi 200 送して送す。佐田、肥下の此はめと帰る(伊豆で中子
会はせ)。瀧下と八重生訪わしに就寝と、色を有はあがり、セキは"殺蛇のtypha 性、古
はや通学出来と。(前日支子の計集予約) 出て秋田生と水野生をつか No. 1 下りしと。同車

徳田重⁷と夏江⁷記⁷を、Heineと我田⁷の⁷号はす。1820年11月3. 4の複印12月8日
viii. 大蔵重⁷氏⁷の⁷面白く⁷観⁷は⁷と、4m=7れ⁷れ:

12月7日 11.00 置換。田玉君へ紹介状の事三村・藤田2名にわす。山形敬子宛職務す。批准状の事。藤田の家へし汽船会社へ各々書置き。明日休むこと。12月蒲池の会を区、33日。寺田の石塚へ春月(象徴の鳥賊(50))、秋水(行人行歌(50))、青春(青春(85))、思ひ帰電。角川の学芸展へ通し来。元々就ての原稿受取。池華芸会へ12月今西春秋の作を志年会と。(12月佐津の母へ及村とこれと4の電話ありしこと(12月)。12月宮内閣秘書職。19.00 浦野へ電話し、佐津へ今電話あり。12月15.00の茶会あり。

8日 学校へ電話し、主用にて教授会にお知らせとあり、父の over-coat が人に盗られて去。大隈邸
を出て大隈屋を訪ねた常任外に、阪急 depart に乗った金銭を盗られ、また阪神の中にも「金持」
にて会へると驚愕して女子より、三菱商事の山中嬢に会い横山と訪へば不在、山中事務所に
中をしる山中詣り。佐津川屋敷がいろいろ（薩摩此方欠勤）和島事務所の中へ、岩吉氏の相談せ
し話目。来きて大塚の中に五野堂一丁教へらして selection とおもうわけは、その教へられに
及んかて話をした（500月にて6人）。高尾で「胡人の白子（150）」見て、四つ指文樂院に合
部は踊りを見て、堀内や北野家の中へ、石木といふ店番の母君と雅子君に会う 12月19.00
+26 歌兼車にて結合せし、husにて天王寺、湖岸御之井合せし、午後にて帰宅、秋太
学郎の満蒙支那2冊、甲中歳子夫人の歌集青蓮。（たぬ政君友の会に額田生訪れれば
懐いて無量感あり）。小西隆子への歳暮の砂糖菓子。

9日 午後4時に眼科。休日に思ひか押して。7時止。蘇東俊の足校。古巻9時向
々なをほり、Goethe⁷也。此處に電話材。合評中。藪中氏の電話。長沖氏とわいの紹介
状もして上平生面会。わく。澤山とせしと思ひ直して美術談。蘇東俊の会。は。唐
三彩。神を運。の。受。人。は。佐々木。炭氣。藏。と。掌。文。室。とは。中。學。同。級。と。出。て。お。思。ひ。直。し
市電。廻。路。で。下。車。炭。木。利。夫。訪。め。お。仕。不。快。去。る。て。村。橋。の。中。で。P。氏。旋。舞。の。い。

本園明、堀厩附(140)ノ里ノ(北に工田田畠著)、梅田新道に、此ノ既族ノ所ナ
在ルノ常宅、此ノ住廣子ニ貸金1,500圓ナリ也。

12月10日 よへ8.00より 寝て元気があへし、学校へ行き佐瀬君に電話して藤村氏への使者
なり。菊池氏の来つしん治婚 2月1日と云い、ともし出しの噂が通され、広常生に会へば
Cunninghamにて学校へやこなつて、思ひ返してすゝめ、年報のことで話して西宮君と云へ
ば、宜口泣きおして、思ひつて訪ねし帰り。20.00再訪を約して帰る。横河氏と
9人かきと、菊池氏の来状見て、おなかはへた。高慢と不勉強と云い22.00帰る。
けいふ野和の1500円と云い、文学座の1500円即符買ふ。新刊の介電石(文
等)と文芸春秋と云い買ふ。

11日 山前君の19日の情⁷の会。市松と出た。森三郎三郎⁷ニ甲は干支と。今更乞乞⁷
り青年の雑誌に至稿とと。梅田、西匠両家⁷の19日の掌内状。午後出て國立病院中央病
棟108号のすまふ一秀君を召舞ふ。知事宛ニの胆石手術後⁷の文芸春秋⁷の月う思ふ
は⁷。天竺の古本屋にて「太宰治の年表(50)」⁷、⁷「文芸綱要(130)」⁷。

12日(日) 角川書店より紙5,000枚の貸取。12.50出て12:21 高島屋まで13.45北野駅で、白毛
おさん、taxiで橋場、三軒の45分湖東夫妻・田中(三)氏15.00来り。中々美男子にて
話もなし。税おさんおさんして心配せしめ、すて、2人Etaxiにのせ、右のつち高尾のちき、草
古文化研究(450)⁷、台湾清史記(150)⁷、朝鮮古代の臺制(180)⁷—あとでdoubleとわろ
う—書いて帰定せんとせん。大股股で噂のと少しは印刷と同級、森田君一君、本¹²は
ちと。(けいの部室3.030は活版屋の机にてくわし)。

13日 湖南君より電信。是後君は。13.00より来るに及ぶに、上平野の会社にておられ、人から
之を呼ばれ待たせり。其より先二弟君酒を飲めり。3月末に筆式とせり。早速に御家へお見え
たり。其の時に會ひ。14.18.00にハルにて御合せ。20.30に役所にて父君と會つておられり。す。
即ち5日。15.15月夜に（お母君ととも全日取組み會ひ）。帰て解夏に西宮君と校正交授。

6日 11.00 出て、蒲池氏へのハナキ校通、学校へ校小出氏の西信君。式に出ると、祝辞のつち、
 南力生にエカ、西信嬢、先生来由の絶をエとんと。ハナ学院で屋上へ投身自殺した。
 15.00 銀治君と出て、愛の泉とて、オチ野崎君の会。新年宴会とするに、佐々木三和同
 夫人、名古屋の移住と、新装のりし、面影のオチで coffee をエ、江戸のオチ、美智子嬢
 にお帰ら、出て銀治君のオチ、女性恩恵文(50)のオチ、Radio のオチ、オチ、
 酔疲小の塾生とオチ、吉崎雅子のオチ、田中昭二郎のオチ。夜西信嬢の連達。

取山着。雨の中を一緒に山へ南へ会計に行く。10.30 着き coffee 店まで待つ。11.30 まで待つ。
 雨降来ず。やがて雨降の使いの中へ子来す。11.20 着附け係なり。中々平常通り。雨の中へ。
 4. 字交わり。12.00 まで披露。雨降但し。最芝居の全う。隣りの山は松葉の代り。松葉
 芝居の人。向ふは山群と云ふ(久)の隣。中々居(木)へ来す。紹介は中々終り。12.15.
 中々 2 君の反討也。14.00 迎へに来し信田親子の/時間後再来と云ふ。15.00 まで中々
 久之。中々捕生と来しと auto no せの中水軒の/名題は中々準備也。中々行き。
 君。捕生子。生駒生(英)と話し土敷に山の中へ来す。飯席の 16.48p. 村正運来

屋上から落ち死亡

帝家山
学院で 試験勉強中

十六日朝八時半ごろ住吉区帝家山
中三、帝家山学院校舎南東隅の空
地で同院高等部三年山本敦子さん
(一八)阿倍野区北宮東二ノ四、会
社役員隆三郎氏三女一が死んでい
た。住吉署で調べたところ全身を
強打しており、約十センチの高さの屋
上から転落死したものらしい。

屋上は一辺足らずのヘイに囲ま
れているだけで危険なため立入
禁止となっていたが敦子さんは
この日から始まる学期末試験のため早い目に登校中、人気がない静
かな場所であつて落ちたものらしい。

29. 夜来まで492校正。書き下しを²⁵加²⁴す²³が²²は²¹改²⁰てありし用¹⁹か¹⁸つ¹⁷ま¹⁶う¹⁵と
す。全部で24p. 14外とらん。(147昭和全国に2341は横田文子書)。)

12月20日 午まで寝床。④なし。19.30まで湖田家へ行き扇子受取り。すし外つちまで茶井寺ゆ
けは、小野和子の手紙送りし。扇子つちまで返し扇子もよこせとる。夕飯をへて出る(4とか
け清水文子に道い合ひ)。朝²に包¹が⁰あ⁻¹は⁻²「電車賃」入⁻³り⁻⁴し。藤原生⁵の電話あり。来⁶て⁷
れと。夜湖田君に電話あり。

21日 8.00すぎ morning にて家を出。天王寺の bus にて堺まで乗る。9.40. 市はては堺家へ
ゆき扇子納めあり。新子嬢の手紙。cake の感謝。19.00 映像(1.00)もす。15.00 堺
家へゆき。扇子と生を納め。すし印配走なり。近鉄 depart にて Ideline 2冊。山崎文子書⁷
期日相違電話⁶買⁵。便箋と封筒買⁴て帰³る。佐伯と来²る。合¹ひ。河井と津生⁰
り。如⁻¹歳暮⁻²の⁻³来⁻⁴り⁻⁵と⁻⁶す。佐伯の電話。上平と^{富士}山¹の²大³職⁴に⁵い⁶れ⁷し。やが
てとる声に 鈴木(林)母子来⁸る。高野流の家へゆき。隣人⁹の¹⁰一¹¹男¹²君¹³の¹⁴立¹⁵合¹⁶大¹⁷
の中¹⁸に¹⁹ゆ²⁰き。懐²¹中²²に²³い²⁴れ²⁵る。今²⁶見²⁷に²⁸い²⁹れ³⁰る。16.00 まで梅田。
taxi にて宝³¹の³²中央³³電力³⁴会³⁵館³⁶。書³⁷森³⁸。藤³⁹原⁴⁰両⁴¹家⁴²。松⁴³事⁴⁴。三⁴⁵菱⁴⁶高⁴⁷事⁴⁸。月
か生命⁴⁹の⁵⁰人⁵¹と⁵²一⁵³度⁵⁴。花⁵⁵嫁⁵⁶と⁵⁷い⁵⁸ふ。新⁵⁹市⁶⁰は⁶¹新⁶²市⁶³工⁶⁴業⁶⁵中⁶⁶区⁶⁷。鳥⁶⁸橋⁶⁹。古⁷⁰市⁷¹。主⁷²大⁷³経⁷⁴と。19.30 大⁷⁵和⁷⁶路
へて市⁷⁷人⁷⁸出⁷⁹。飯⁸⁰会⁸¹と⁸²なり。11.00 岸⁸³上⁸⁴の⁸⁵あ⁸⁶し⁸⁷は⁸⁸の⁸⁹「通⁹⁰第⁹¹」と⁹²買⁹³て⁹⁴帰⁹⁵る。上⁹⁶平⁹⁷の⁹⁸大⁹⁹職¹⁰⁰
の¹⁰¹電話¹⁰²。11.00 織¹⁰³田¹⁰⁴信¹⁰⁵子¹⁰⁶の¹⁰⁷富¹⁰⁸士¹⁰⁹坊¹¹⁰入¹¹¹社¹¹²試¹¹³の¹¹⁴落¹¹⁵し¹¹⁶と。堀¹¹⁷外¹¹⁸横¹¹⁹氏¹²⁰の¹²¹西¹²²條¹²³家¹²⁴の¹²⁵あ¹²⁶し¹²⁷
と¹²⁸電話¹²⁹に¹³⁰し¹³¹。大¹³²江¹³³坂¹³⁴の¹³⁵和¹³⁶子¹³⁷の¹³⁸経¹³⁹路¹⁴⁰。田¹⁴¹中¹⁴²昭¹⁴³二¹⁴⁴郎¹⁴⁵。北¹⁴⁶野¹⁴⁷雅¹⁴⁸子¹⁴⁹の¹⁵⁰始¹⁵¹め¹⁵²成¹⁵³立¹⁵⁴
達¹⁵⁵達¹⁵⁶。山¹⁵⁷前¹⁵⁸金¹⁵⁹治¹⁶⁰の¹⁶¹270 中¹⁶²と¹⁶³。11.54 山¹⁶⁴前¹⁶⁵1,200 にて買¹⁶⁶ふ。

22日 藤原叔父の電話。お金費6.000 にて。竹村氏来¹。新²市³の⁴消⁵火⁶番⁷と⁸行⁹き¹⁰て¹¹り¹²す。

里井生(2部1年)の再縁交とあり。梅田夫妻有馬。新¹市²の³山⁴前⁵の⁶山⁷前⁸の⁹山¹⁰前¹¹の¹²山¹³前¹⁴の¹⁵山¹⁶前¹⁷の¹⁸山¹⁹前²⁰の²¹山²²前²³の²⁴山²⁵前²⁶の²⁷山²⁸前²⁹の³⁰山³¹前³²の³³山³⁴前³⁵の³⁶山³⁷前³⁸の³⁹山⁴⁰前⁴¹の⁴²山⁴³前⁴⁴の⁴⁵山⁴⁶前⁴⁷の⁴⁸山⁴⁹前⁵⁰の⁵¹山⁵²前⁵³の⁵⁴山⁵⁵前⁵⁶の⁵⁷山⁵⁸前⁵⁹の⁶⁰山⁶¹前⁶²の⁶³山⁶⁴前⁶⁵の⁶⁶山⁶⁷前⁶⁸の⁶⁹山⁷⁰前⁷¹の⁷²山⁷³前⁷⁴の⁷⁵山⁷⁶前⁷⁷の⁷⁸山⁷⁹前⁸⁰の⁸¹山⁸²前⁸³の⁸⁴山⁸⁵前⁸⁶の⁸⁷山⁸⁸前⁸⁹の⁹⁰山⁹¹前⁹²の⁹³山⁹⁴前⁹⁵の⁹⁶山⁹⁷前⁹⁸の⁹⁹山¹⁰⁰前¹⁰¹の¹⁰²山¹⁰³前¹⁰⁴の¹⁰⁵山¹⁰⁶前¹⁰⁷の¹⁰⁸山¹⁰⁹前¹¹⁰の¹¹¹山¹¹²前¹¹³の¹¹⁴山¹¹⁵前¹¹⁶の¹¹⁷山¹¹⁸前¹¹⁹の¹²⁰山¹²¹前¹²²の¹²³山¹²⁴前¹²⁵の¹²⁶山¹²⁷前¹²⁸の¹²⁹山¹³⁰前¹³¹の¹³²山¹³³前¹³⁴の¹³⁵山¹³⁶前¹³⁷の¹³⁸山¹³⁹前¹⁴⁰の¹⁴¹山¹⁴²前¹⁴³の¹⁴⁴山¹⁴⁵前¹⁴⁶の¹⁴⁷山¹⁴⁸前¹⁴⁹の¹⁵⁰山¹⁵¹前¹⁵²の¹⁵³山¹⁵⁴前¹⁵⁵の¹⁵⁶山¹⁵⁷前¹⁵⁸の¹⁵⁹山¹⁶⁰前¹⁶¹の¹⁶²山¹⁶³前¹⁶⁴の¹⁶⁵山¹⁶⁶前¹⁶⁷の¹⁶⁸山¹⁶⁹前¹⁷⁰の¹⁷¹山¹⁷²前¹⁷³の¹⁷⁴山¹⁷⁵前¹⁷⁶の¹⁷⁷山¹⁷⁸前¹⁷⁹の¹⁸⁰山¹⁸¹前¹⁸²の¹⁸³山¹⁸⁴前¹⁸⁵の¹⁸⁶山¹⁸⁷前¹⁸⁸の¹⁸⁹山¹⁹⁰前¹⁹¹の¹⁹²山¹⁹³前¹⁹⁴の¹⁹⁵山¹⁹⁶前¹⁹⁷の¹⁹⁸山¹⁹⁹前²⁰⁰の²⁰¹山²⁰²前²⁰³の²⁰⁴山²⁰⁵前²⁰⁶の²⁰⁷山²⁰⁸前²⁰⁹の²¹⁰山²¹¹前²¹²の²¹³山²¹⁴前²¹⁵の²¹⁶山²¹⁷前²¹⁸の²¹⁹山²²⁰前²²¹の²²²山²²³前²²⁴の²²⁵山²²⁶前²²⁷の²²⁸山²²⁹前²³⁰の²³¹山²³²前²³³の²³⁴山²³⁵前²³⁶の²³⁷山²³⁸前²³⁹の²⁴⁰山²⁴¹前²⁴²の²⁴³山²⁴⁴前²⁴⁵の²⁴⁶山²⁴⁷前²⁴⁸の²⁴⁹山²⁵⁰前²⁵¹の²⁵²山²⁵³前²⁵⁴の²⁵⁵山²⁵⁶前²⁵⁷の²⁵⁸山²⁵⁹前²⁶⁰の²⁶¹山²⁶²前²⁶³の²⁶⁴山²⁶⁵前²⁶⁶の²⁶⁷山²⁶⁸前²⁶⁹の²⁷⁰山²⁷¹前²⁷²の²⁷³山²⁷⁴前²⁷⁵の²⁷⁶山²⁷⁷前²⁷⁸の²⁷⁹山²⁸⁰前²⁸¹の²⁸²山²⁸³前²⁸⁴の²⁸⁵山²⁸⁶前²⁸⁷の²⁸⁸山²⁸⁹前²⁹⁰の²⁹¹山²⁹²前²⁹³の²⁹⁴山²⁹⁵前²⁹⁶の²⁹⁷山²⁹⁸前²⁹⁹の³⁰⁰山³⁰¹前³⁰²の³⁰³山³⁰⁴前³⁰⁵の³⁰⁶山³⁰⁷前³⁰⁸の³⁰⁹山³¹⁰前³¹¹の³¹²山³¹³前³¹⁴の³¹⁵山³¹⁶前³¹⁷の³¹⁸山³¹⁹前³²⁰の³²¹山³²²前³²³の³²⁴山³²⁵前³²⁶の³²⁷山³²⁸前³²⁹の³³⁰山³³¹前³³²の³³³山³³⁴前³³⁵の³³⁶山³³⁷前³³⁸の³³⁹山³⁴⁰前³⁴¹の³⁴²山³⁴³前³⁴⁴の³⁴⁵山³⁴⁶前³⁴⁷の³⁴⁸山³⁴⁹前³⁵⁰の³⁵¹山³⁵²前³⁵³の³⁵⁴山³⁵⁵前³⁵⁶の³⁵⁷山³⁵⁸前³⁵⁹の³⁶⁰山³⁶¹前³⁶²の³⁶³山³⁶⁴前³⁶⁵の³⁶⁶山³⁶⁷前³⁶⁸の³⁶⁹山³⁷⁰前³⁷¹の³⁷²山³⁷³前³⁷⁴の³⁷⁵山³⁷⁶前³⁷⁷の³⁷⁸山³⁷⁹前³⁸⁰の³⁸¹山³⁸²前³⁸³の³⁸⁴山³⁸⁵前³⁸⁶の³⁸⁷山³⁸⁸前³⁸⁹の³⁹⁰山³⁹¹前³⁹²の³⁹³山³⁹⁴前³⁹⁵の³⁹⁶山³⁹⁷前³⁹⁸の³⁹⁹山⁴⁰⁰前⁴⁰¹の⁴⁰²山⁴⁰³前⁴⁰⁴の⁴⁰⁵山⁴⁰⁶前⁴⁰⁷の⁴⁰⁸山⁴⁰⁹前⁴¹⁰の⁴¹¹山⁴¹²前⁴¹³の⁴¹⁴山⁴¹⁵前⁴¹⁶の⁴¹⁷山⁴¹⁸前⁴¹⁹の⁴²⁰山⁴²¹前⁴²²の⁴²³山⁴²⁴前⁴²⁵の⁴²⁶山⁴²⁷前⁴²⁸の⁴²⁹山⁴³⁰前⁴³¹の⁴³²山⁴³³前⁴³⁴の⁴³⁵山⁴³⁶前⁴³⁷の⁴³⁸山⁴³⁹前⁴⁴⁰の⁴⁴¹山⁴⁴²前⁴⁴³の⁴⁴⁴山⁴⁴⁵前⁴⁴⁶の⁴⁴⁷山⁴⁴⁸前⁴⁴⁹の⁴⁵⁰山⁴⁵¹前⁴⁵²の⁴⁵³山⁴⁵⁴前⁴⁵⁵の⁴⁵⁶山⁴⁵⁷前⁴⁵⁸の⁴⁵⁹山⁴⁶⁰前⁴⁶¹の⁴⁶²山⁴⁶³前⁴⁶⁴の⁴⁶⁵山⁴⁶⁶前⁴⁶⁷の⁴⁶⁸山⁴⁶⁹前⁴⁷⁰の⁴⁷¹山⁴⁷²前⁴⁷³の⁴⁷⁴山⁴⁷⁵前⁴⁷⁶の⁴⁷⁷山⁴⁷⁸前⁴⁷⁹の⁴⁸⁰山⁴⁸¹前⁴⁸²の⁴⁸³山⁴⁸⁴前⁴⁸⁵の⁴⁸⁶山⁴⁸⁷前⁴⁸⁸の⁴⁸⁹山⁴⁹⁰前⁴⁹¹の⁴⁹²山⁴⁹³前⁴⁹⁴の⁴⁹⁵山⁴⁹⁶前⁴⁹⁷の⁴⁹⁸山⁴⁹⁹前⁵⁰⁰の⁵⁰¹山⁵⁰²前⁵⁰³の⁵⁰⁴山⁵⁰⁵前⁵⁰⁶の⁵⁰⁷山⁵⁰⁸前⁵⁰⁹の⁵¹⁰山⁵¹¹前⁵¹²の⁵¹³山⁵¹⁴前⁵¹⁵の⁵¹⁶山⁵¹⁷前⁵¹⁸の⁵¹⁹山⁵²⁰前⁵²¹の⁵²²山⁵²³前⁵²⁴の⁵²⁵山⁵²⁶前⁵²⁷の⁵²⁸山⁵²⁹前⁵³⁰の⁵³¹山⁵³²前⁵³³の⁵³⁴山⁵³⁵前⁵³⁶の⁵³⁷山⁵³⁸前⁵³⁹の⁵⁴⁰山⁵⁴¹前⁵⁴²の⁵⁴³山⁵⁴⁴前⁵⁴⁵の⁵⁴⁶山⁵⁴⁷前⁵⁴⁸の⁵⁴⁹山⁵⁵⁰前⁵⁵¹の⁵⁵²山⁵⁵³前⁵⁵⁴の⁵⁵⁵山⁵⁵⁶前⁵⁵⁷の⁵⁵⁸山⁵⁵⁹前⁵⁶⁰の⁵⁶¹山⁵⁶²前⁵⁶³の⁵⁶⁴山⁵⁶⁵前⁵⁶⁶の⁵⁶⁷山⁵⁶⁸前⁵⁶⁹の⁵⁷⁰山⁵⁷¹前⁵⁷²の⁵⁷³山⁵⁷⁴前⁵⁷⁵の⁵⁷⁶山⁵⁷⁷前⁵⁷⁸の⁵⁷⁹山⁵⁸⁰前⁵⁸¹の⁵⁸²山⁵⁸³前⁵⁸⁴の⁵⁸⁵山⁵⁸⁶前⁵⁸⁷の⁵⁸⁸山⁵⁸⁹前⁵⁹⁰の⁵⁹¹山⁵⁹²前⁵⁹³の⁵⁹⁴山⁵⁹⁵前⁵⁹⁶の⁵⁹⁷山⁵⁹⁸前⁵⁹⁹の⁶⁰⁰山⁶⁰¹前⁶⁰²の⁶⁰³山⁶⁰⁴前⁶⁰⁵の⁶⁰⁶山⁶⁰⁷前⁶⁰⁸の⁶⁰⁹山⁶¹⁰前⁶¹¹の⁶¹²山⁶¹³前⁶¹⁴の⁶¹⁵山⁶¹⁶前⁶¹⁷の⁶¹⁸山⁶¹⁹前⁶²⁰の⁶²¹山⁶²²前⁶²³の⁶²⁴山⁶²⁵前⁶²⁶の⁶²⁷山⁶²⁸前⁶²⁹の⁶³⁰山⁶³¹前⁶³²の⁶³³山⁶³⁴前⁶³⁵の⁶³⁶山⁶³⁷前⁶³⁸の⁶³⁹山⁶⁴⁰前⁶⁴¹の⁶⁴²山⁶⁴³前⁶⁴⁴の⁶⁴⁵山⁶⁴⁶前⁶⁴⁷の⁶⁴⁸山⁶⁴⁹前⁶⁵⁰の⁶⁵¹山⁶⁵²前⁶⁵³の⁶⁵⁴山⁶⁵⁵前⁶⁵⁶の⁶⁵⁷山⁶⁵⁸前⁶⁵⁹の⁶⁶⁰山⁶⁶¹前⁶⁶²の⁶⁶³山⁶⁶⁴前⁶⁶⁵の⁶⁶⁶山⁶⁶⁷前⁶⁶⁸の⁶⁶⁹山⁶⁷⁰前⁶⁷¹の⁶⁷²山⁶⁷³前⁶⁷⁴の⁶⁷⁵山⁶⁷⁶前⁶⁷⁷の⁶⁷⁸山⁶⁷⁹前⁶⁸⁰の⁶⁸¹山⁶⁸²前⁶⁸³の⁶⁸⁴山⁶⁸⁵前⁶⁸⁶の⁶⁸⁷山⁶⁸⁸前⁶⁸⁹の⁶⁹⁰山⁶⁹¹前⁶⁹²の⁶⁹³山⁶⁹⁴前⁶⁹⁵の⁶⁹⁶山⁶⁹⁷前⁶⁹⁸の⁶⁹⁹山⁷⁰⁰前⁷⁰¹の⁷⁰²山⁷⁰³前⁷⁰⁴の⁷⁰⁵山⁷⁰⁶前⁷⁰⁷の⁷⁰⁸山⁷⁰⁹前⁷¹⁰の⁷¹¹山⁷¹²前⁷¹³の⁷¹⁴山⁷¹⁵前⁷¹⁶の⁷¹⁷山⁷¹⁸前⁷¹⁹の⁷²⁰山⁷²¹前⁷²²の⁷²³山⁷²⁴前⁷²⁵の⁷²⁶山⁷²⁷前⁷²⁸の⁷²⁹山⁷³⁰前⁷³¹の⁷³²山⁷³³前⁷³⁴の⁷³⁵山⁷³⁶前⁷³⁷の⁷³⁸山⁷³⁹前⁷⁴⁰の⁷⁴¹山⁷⁴²前⁷⁴³の⁷⁴⁴山⁷⁴⁵前⁷⁴⁶の⁷⁴⁷山⁷⁴⁸前⁷⁴⁹の⁷⁵⁰山⁷⁵¹前⁷⁵²の⁷⁵³山⁷⁵⁴前⁷⁵⁵の⁷⁵⁶山⁷⁵⁷前⁷⁵⁸の⁷⁵⁹山⁷⁶⁰前⁷⁶¹の⁷⁶²山⁷⁶³前⁷⁶⁴の⁷⁶⁵山⁷⁶⁶前⁷⁶⁷の⁷⁶⁸山⁷⁶⁹前⁷⁷⁰の⁷⁷¹山⁷⁷²前⁷⁷³の⁷⁷⁴山⁷⁷⁵前⁷⁷⁶の⁷⁷⁷山⁷⁷⁸前⁷⁷⁹の⁷⁸⁰山⁷⁸¹前⁷⁸²の⁷⁸³山⁷⁸⁴前⁷⁸⁵の⁷⁸⁶山⁷⁸⁷前⁷⁸⁸の⁷⁸⁹山⁷⁹⁰前⁷⁹¹の⁷⁹²山⁷⁹³前⁷⁹⁴の⁷⁹⁵山⁷⁹⁶前⁷⁹⁷の⁷⁹⁸山⁷⁹⁹前⁸⁰⁰の⁸⁰¹山⁸⁰²前⁸⁰³の⁸⁰⁴山⁸⁰⁵前⁸⁰⁶の⁸⁰⁷山⁸⁰⁸前⁸⁰⁹の⁸¹⁰山⁸¹¹前⁸¹²の⁸¹³山⁸¹⁴前⁸¹⁵の⁸¹⁶山⁸¹⁷前⁸¹⁸の⁸¹⁹山⁸²⁰前⁸²¹の⁸²²山⁸²³前⁸²⁴の⁸²⁵山⁸²⁶前⁸²⁷の⁸²⁸山⁸²⁹前⁸³⁰の⁸³¹山⁸³²前⁸³³の⁸³⁴山⁸³⁵前⁸³⁶の⁸³⁷山⁸³⁸前⁸³⁹の⁸⁴⁰山⁸⁴¹前⁸⁴²の⁸⁴³山⁸⁴⁴前⁸⁴⁵の⁸⁴⁶山⁸⁴⁷前⁸⁴⁸の⁸⁴⁹山⁸⁵⁰前⁸⁵¹の⁸⁵²山⁸⁵³前⁸⁵⁴の⁸⁵⁵山⁸⁵⁶前⁸⁵⁷の⁸⁵⁸山⁸⁵⁹前⁸⁶⁰の⁸⁶¹山⁸⁶²前⁸⁶³の⁸⁶⁴山⁸⁶⁵前⁸⁶⁶の⁸⁶⁷山⁸⁶⁸前⁸⁶⁹の⁸⁷⁰山⁸⁷¹前⁸⁷²の⁸⁷³山⁸⁷⁴前⁸⁷⁵の⁸⁷⁶山⁸⁷⁷前⁸⁷⁸の⁸⁷⁹山⁸⁸⁰前⁸⁸¹の⁸⁸²山⁸⁸³前⁸⁸⁴の⁸⁸⁵山⁸⁸⁶前⁸⁸⁷の⁸⁸⁸山⁸⁸⁹前⁸⁹⁰の⁸⁹¹山⁸⁹²前⁸⁹³の⁸⁹⁴山⁸⁹⁵前⁸⁹⁶の⁸⁹⁷山⁸⁹⁸前⁸⁹⁹の⁹⁰⁰山⁹⁰¹前⁹⁰²の⁹⁰³山⁹⁰⁴前⁹⁰⁵の⁹⁰⁶山⁹⁰⁷前⁹⁰⁸の⁹⁰⁹山⁹¹⁰前⁹¹¹の⁹¹²山⁹¹³前⁹¹⁴の⁹¹⁵山⁹¹⁶前⁹¹⁷の⁹¹⁸山⁹¹⁹前⁹²⁰の⁹²¹山⁹²²前⁹²³の⁹²⁴山⁹²⁵前⁹²⁶の⁹²⁷山⁹²⁸前⁹²⁹の⁹³⁰山⁹³¹前⁹³²の⁹³³山⁹³⁴前⁹³⁵の⁹³⁶山⁹³⁷前⁹³⁸の⁹³⁹山⁹⁴⁰前⁹⁴¹の⁹⁴²山⁹⁴³前⁹⁴⁴の⁹⁴⁵山⁹⁴⁶前⁹⁴⁷の⁹⁴⁸山⁹⁴⁹前⁹⁵⁰の⁹⁵¹山⁹⁵²前⁹⁵³の⁹⁵⁴山⁹⁵⁵前⁹⁵⁶の⁹⁵⁷山⁹⁵⁸前⁹⁵⁹の⁹⁶⁰山⁹⁶¹前⁹⁶²の⁹⁶³山⁹⁶⁴前⁹⁶⁵の⁹⁶⁶山⁹⁶⁷前⁹⁶⁸の⁹⁶⁹山⁹⁷⁰前⁹⁷¹の⁹⁷²山⁹⁷³前⁹⁷⁴の⁹⁷⁵山⁹⁷⁶前⁹⁷⁷の⁹⁷⁸山⁹⁷⁹前⁹⁸⁰の⁹⁸¹山⁹⁸²前⁹⁸³の⁹⁸⁴山⁹⁸⁵前⁹⁸⁶の⁹⁸⁷山⁹⁸⁸

12月25日 佐瀬に電話し方々をたずねた。父の電話。風邪の作休が止。百濟薬子の油。楠戸の coffee (おれは紙入の whisky を呑み。西宮の)。久保田信博の牛乳味。雪漬の鶏。百濟のハカキ。筑摩の矯正全部返す。但し野年乙止。堀内良一氏の還空乙止。乞乞野1月号。佐瀬の蒲團5枚(1.400)買ひ来す。夕方入浴。佐瀬君の夢乙止。29日朝母君の会乙止。22.00まで話す。好青年乙。

26日 10.00 去て梅田。近古書院に2(140)と万葉集の時代を記す。通志刊行書目録も52。新撰古今
出づるに花はす。说得し、ある。梅田氏妻の1147、長崎の果菜送る。山前居る27113.00
骨の合と。144 倭紀子安と。西村子生来、菓子と1.000 本とせし。通部するといふ。

27日 11.00 西宮君来訪、政務3件ほか、楠戸生のwhiskyも5杯のり。とちんがて(鈴鈴)と云
れし。京阪の京都、市電で丸太町、暁堂へ4時、中芸 calendar 贈り、孟浩然集¹は夢の如
し。山前君より来々、寺を雇ひて、このれと園々(30)¹、大町と華平(40)¹買ふ。山前君に着
けし。15時、会々を流れし。近所の印刷屋、呼んで積合せし。戦後吟¹(100頁、1冊前々)の
り14.00と已積り。花んをたぐ。宵8¹20冊も、羽田¹²電話すれば、研究室へく。4
元で得る。山崎さんへ、池井君の途中已けし。狐の海情(20)¹贈り、内蒙古語部語¹送る
借り。防衛大学へとて羽田、鈴木俊氏へは止せと云ふし。三喜前より来て京阪
のりて帰る。李¹の校正来て21.258頁なり。辻英子之母君来り、佃煮贈りし。西園生へ電話
か、りし。その評揚王¹了る(掲載450)。22.30 友人辻 辞表を来る。

28日 会社へ中野池田の噂を聞いてその土地を調べた。会社への報告は、職業公
共会館へと原君に電話し、年賀葉書から(田中政平、中野政成、昌之、右衛門、神田、和田、井上三三
市、服部英太郎、沢田四郎作、桑田、樺田、守野、宇野宮、森下、田村孝敏、吉岡、佐田、神崎院
長、河和純一、土田、石倉、西島、西島孝一、林、陽曲、嶋、鈴田、斎藤中、工藤、丸、佐木、
肉、荒木、前田、山前、川端、佐々木、加藤)。この5日ほど置いた。18.00外谷(池田孝之)
西岡屋と車子。松本市の同僚にて西岡省三園長館へ随任と小野十三郎に会った。西岡は海

否、外名は castilla 然。慢り中し而と赤星を引け度く、池を意地張して、土にてもなしては
く話す。夜に月が salary と可合費する。其の 12.00 徳野を来りてもしやれ也 (受取あり
と云ひてよせす)。其の湖東君に電話、明日はくはぬ。

12月29日 7.00 出て近鉄で散髪。佐藤家で母上と話し合ふ場合のことは養子可也。父上に話し好
感もつ。返されるときは五子としを(10)月^(里)~~4~~号⁷とカステラもさ、油豆家のやう。主部の義兄
正月に来るといふこと、北野家に電話し母上の20分ごと、11月末までと云ふ、出て近鉄depart
て花買ひ(570)、くばりえりやは⁷第19、山手線三郎邸の中を敬子君と母上と会い、落着い
る。去て尾田家の常盤屋敷へ使ひなし。去て津熊家、和子嬢と話して方と母上滑定せられ
たに於て出る、寺田町、石塚で、花文化文(95)⁷、きりぬぐ大名(250)⁷買つて清江。柳子夫人
の菓子とハガキ。俳句蔵の三冊精校の途中、重役といひ改めし。銀治市に電話16.00
来り、文芸club通信⁷と奈良讀と端々。池元有入、峰を危なくぬかと、つれ来れとなす。
30日 ~~中~~平月北の外国人名事典⁷出ると挨拶。12.00 八木小女子嬢来訪。省⁷蘇子嬢の庭園
手信はし。Album貼つて出し。省⁷は葛橋和田郎、西川、坪井、服部、柳井、中野、斎藤10人、肥
下。斎藤おみよりcheeze来。梅田夫婦の華果来らし。太塚来り厚沢波正氏より1500円
出。不足といはれし、小林君子より油、鎌倉洋子より砂糖2kg。賜ふ。11枚裏16.00持ち帰り。

31日 山崎雪子氏 海へ出た。いつか1冊と運達す。佐本子にのみ1冊。蓋散の詩、5年1月迄
達。鍵各、佐。小林君子へ託状。小林君子の10年後に来ると、佐に託状。小林仁太の同。
向山より1枚3版1冊(12月15日発行)。夕方風邪にて可憐し。池のdoctorへ申し
不在。夜湖太郎の電話。主君、已君来す。何の秋に送り賜ふ。1冊、蓋散の初校終
了。

1955年

乙卯1月 冠大卒業生15校、在校生107校、その他15校、計賀状27校。15.30+
 野和子に電話4日、近頃どうかと、すぐ来たと返す。16.30来り伏和子に、お食事を。
 乙卯見已居来り20.00まで帰りに、仲好也に知らせ。賀状の返して 山川雪司、川崎有佳、
 以之保、武田豊、田中祐子、池田徹、佐々木純子、中村地平、武田信一、森井夫人、仙野美須夫、
 南部英美子、坂口光男、伊藤徳子、三村幸一諸氏へ。夜卒業生へ賀状6校、林富太郎へ⁷
 岩井大慧、神田信夫、和田久保、尾崎夫、佐中壯、鈴木俊、竹田龍見、味野里の諸氏へ、藤東
 城⁷へ賀状の代り。

2日 不眠。23時50分〜12.43にて徳庵院(1054100枚置)から往つて板面、江戸
東家へ13.45に着く。折板保つてし頃二時居るに1月末日月初に簡素な式をせし中入れ
とあり、下であつたが、この頃には邸家まで(920)の字を二人にせし、新理はは
18.00 別室にて父母君に話して、早く葬式承知。簡単な葬式も賛成。19.00
江戸東家、大井。2月6,7日 吹雪式、仲人は我が夫婦と共。睡眠有りて20.30 帰
宅、翌日13時。大野宅(代田2の1058 祝光軒)。八幡宮、稲荷山神社、直交研究
の藤田君の手紙。

30 賀状返付: 15. のまに計 16. 枚の賀状のみ、徳巻にて返付、送致地の支那郵便局に
 中々此賀状が来るといふ傳へ、やゝして 14 日 = 卯、新子現はた、その日、松張りから来たが、大段破れ
 中々に、湖東夫人と 2 娘まつ尚に簡素に送致す。17. の 3 人きりやとて料理に 20. 20.
 兩人より起す、やゝして散会、兩家との定入りに、野島旅行に紀伊膳浦と。

4日 賀状24枚を見て、村田と二人でその面談、明日の来りや否や早くしるせと云。150巻して帰す。宮口、佐田2枚来たが煙火く遊ばず。14.30に云へ、吉岡の至極に初校と速達で披露の通り(185)、まづ播下紙荷へ初稿の2生と給わ。玉王寺の云々云々云々の文書に合ふ事。2月6日 佐吉と二人で来り。吉野保場を下り、佐吉大抵へ中々「りく」ぬ社務所に云り。3,300前払にして6日と云ふ。佐吉より二人をへて梅内、湖東へ電信して6日決定と云ふ。

১৮৮৭

1月5日 梅田 11.00、主へて祖國社へ中へて祖國712月号出来上りて、蘇子塔⁷の。羽田の電話
ずんば待つて。鍵谷洋子⁷と1人よく訪えぬ。鶴島、奥西保、長尾とて話して去。bus上へて
羽田家の二層蘇子塔⁷に描劇も、内蒙古諸部落の起承⁷15.30去。山前の双林⁷（arint
へて14.10⁷の会。佐田君上より去来すて、新橋⁷の祖國⁷へて、上野橋⁷の電話⁷の
祖國。17.00出て古本屋⁷、主阪書房にて、居屋⁷で解放の「史⁷（90）豊島倫⁷（150）
室⁷の祖國⁷の帰宅。上野橋⁷の小事⁷葉子⁷愛人⁷と。山下幸雄⁷卵⁷愛人⁷と。村田⁷11.00 来る8日
まで就労出来たてのとし。池田女⁷と安部⁷と手信⁷の来てはこれ中と。いと答ふ。望女⁷
37枚。（羽田夫人よりすくえき、潮田氏へ大書生⁷の書簡⁷がけし）。

6日 望水町。阪女塾。杉村清二先生との会。午野井先生と電話、市オ早く来ると云ふ。

夜上平字子不，達達，會社ややら，今合，縁役也や好と。

7日 惣状4枚。村上野矢氏より書り受領。12.00上平生より電話ありし中「さく」事とあり。13.30
上平生来り^(宮上)し、^{宮上}に立寄り、病室中の事務を察しに致せられた。田井生也より車中にて
書きたす。15.00出て天王寺。田井生也近鉄departのsalonにて話せられた。留宿と合はす断縁
とせられた。主へ挨拶せられた。別れてbusにて天神橋。存在労働会館にかけ、市合議室
使用料900にて2月6日定まり。食堂にてお茶。200にてコーヒー、sandwich、紅茶と。主
はbusにて7ハノ橋。近鉄にて今川駅で下車し、会へて久美子と荻井等と。江戸平のハハは果物ついで
300にて上。明日は弟家へお参りせられた。佐吉神社の奉金出せ。津熊家。女君の上平
の江戸ハハは久美子姉と話しに及せられた。果て。宛題書き換へしとせられた。ハハ係記
子荻井等よりハハは^{宮上}の紋付お茶にて洋服とover-coatと受けた。

8日 9.00 出て会社。仕の salary 立替合請求。至君に手交り件一。10.00 の bus に乗。池田大
学の書幅と潮田印の角りか紙銀行へ中へ不在。松下一秀の家へ往復の訪小しか不在。堤内
進の寓り。金田一石川啄木(30) 牛島、金子の王(40)。上へある電車で中西藤孝夫人と同車。

bus 待つ間、土地事務の小林(東西文化の交流(50))と会談、方言の研究(60)。帰る途中、北
路徳治氏の相違小本を貸し出しを任せ也。北野邸へ中ずと竣工後、湖岸家へ(雅子嬢
と同車。佐吉まで64km 佐吉太社。お院お母と、実家へ組の予約し、出て上り作して王寺、bus
にて王神橋、在立常仙会館の1号会待室予約をなし(900)、食堂にて人前300円にて35人位と
9時、披露宴の始まり。天満橋まで来り、古く居て新を居えし。新段の主婚、Grosser P
にてPまで帰宅。村田臨川庵に会ひ、午後来りし。職安功40才位の方来りし。明日返
事と云ふ。14日修徳不來と云ふ。鈴木夫人の会ひの午後、同在家に寄りし。新下喜海
の定状。西宮一氏君の明日の会を知らせず。宮口全の礼状。斎藤の事業の物送らる。

1月9日(日) 8.30まで寝、朝食しすいおし。11.03 祭の月午休。鶴橋のtaxiで深平へ。長沖氏14.0
まで来り、我一人の~~由~~。鶴橋、銀治中味、菊池、岸、北野、相良、太田、寺中、中田、野崎、堤田、藤原、
多、前山、松井、三木、安村、山口、山本、山中、堀江、和島、の23名集まる。すきや飯屋の52名、松崎と
長沖氏と、18.30 午後、某より出て来る(本は此のタバコ林に集まる)。天牛南谷にて下
各取活(60)、老来、西流(60)、竹内初見氏、蘇東坡、と、信田嬢の礼状。流田嬢子
の年定状。池元附人から帰る。冬子に電話、明日来れりや。田中修氏の挨拶。

10日 5時睡眠薬の42.00まで眠り。午後(日) 高松富士氏より3人に会ひし。流野星氏の海
南会に会ひし。蘇東坡興ふく久と、大隈國次氏と会ひし。150/14.00の相會に大下氏と會ひ
て会する。寒中を14.30 出て学校、力身、小林、群村石の途へ会ひ、研究室に來し(日)也。井
川氏から礼状あり。星郎(音々)嬢子の定状も来る。湖田と云ふ礼状。漢文のprintの白染
天玉。銀治君と話し、西宮君と云ふ(在教寺に太田、小西、井の3人通ひし)。夜満るに來
るまで銀治君より、信りやへは「吾の同級生と。帰州」上のsalary 在常会館より来る。

11日 登校へ湖岸の電話かき、15.00の学校へ来りし。鶴橋で下車、昭和修徳2冊買ひ、42
米沢嬢に会ふ。山崎雪子氏の電話、14日來りし明日と。15.00 湖岸へ。11.00 吾家へ來し。順二氏君15
日來ると。と云ふ出てPの橋で84番士に2人かき、藤原氏の会ひ、上平の2人かき、大隈邸前の別れ

上平待つてしはくつりやと云ふ。小宮坂=即ち迄本橋の路へ、佐渡と3人下rice curvy。
上平を帰して津經家の2人へは「おめでとう」。coffeeの42843。(Starにて平田篤胤(50))
芳野清氏の手紙。本村三子氏よりハルキ。

1月12日 9.30 初めの所へ。湖岸の電話かき。16日(日) 田中修氏の北野家訪問を告げし。10.30
出てcollege-hourに。14.30まで待つて山崎雪子氏よりcoffee来る。(銀治の富士嬢来る
縁談進行中)。15.00 長沖氏より教授会、申込まひ3人、学院より43人中27人が出席
を告げし。16.10 食堂で星君の料理の試食。夫「おめでとう」の言葉は在りし。17.30
川至夫人と有郡線。増子に下車。古く居て、竹内氏信(60)、蘇東坡(70)買ひて北野
家の中を父君に湖岸へ傳言す。近鉄departより肉合也。和田市より年定状。仕て有人
より「おめでとう」。

13日 登校。5時かき。歴史や、斎藤の会ひ。長沖氏休講。すきや12.30 出(かき)より臨外全集
が10回と結婚) 梅田玉満、江崎氏より帰る。神田信太氏、蘇東坡からと(西條)梅田夫人
より10年の嫁の如く結婚を話す。

14日 登校。信田生誕生して大各慶の湯合賜ふ。家へ谷田光氏に連車より15.00 学校へ来るとの電
話ありし。北野雅子君より、披露宴の定状が来りし。午後 salary 来る。斎藤の来る
就職を話して置く。長沖、西宮=whiskyの42、在り。14日までの在籍者10名と。寺中下車、世界
女性と、近世の農民史「文字と言葉」が50円。42と云ふの440円也。

15日 休みの日と。田中修氏の2は下の書賜ふ。9.30 出て着信にて10.55 京都着。芳、信田
と会ひ。2人 busにて京都を新橋へルールに居る。某より3人、若井からと会ひし。13.30
4人にて河原三郎とtaxi (60)。京都新橋より、4人より電話す。お勤。4人にて河原三
郎と云い。coffee一花を、表紙置と。河原三郎へ引返し、京都にて天満橋、十合へかき。16
日ラして13.20 在り。天牛にて、4人より古松氏(140)、日下氏の古典(80)買ひ、taxiにて上り
(50)、鶴橋にて843。十合にて市施市街園に買ひ。信田氏のハルキ。藤原氏の奉還を車と。

2月2日 10.00 朝至君上 電話。花井信子披露会出席 28名。計 48名以上。出た God まで満席
常会会館 11時 15分 会館室 2309 15人 計。3時 30分 2652 26人
以上。God まで満席。登壇。予餞会 12時 30分。阪大南校。13時 30分 神内力氏不在。本宅 14時 2分
不在。15.00 以上 教指会。文芸 2 class 11人 以上。15.10 以上 電話 14時 30分 以上 電話 14
(以上)。15.10 以上 17時 再校。披露会出席 28名。2, 3時 以上 城平氏 入席 1人 以上。

3日 試験、岩橋史と監督。初めて水戸市に、19.00からPA、15分平路。抽選は合点でPAは不在。2月PAより来加へ運動中の後藤田望子さんと合入。帰加後岩山寺の書庫5冊位送れり。10冊送る。答ふ。夜城平和堂より電話かゝ在事已に世を去る事を告ぐ。

4日 8.45登校:面接は14.00までかゝる。森本和夫の電話は「湯」の玉柄杓だと。今川の電話にも1412番には在るに近きところと。新定金で頼まれしお金入れ、文芸部改訂増とし、主は今川の電話し、下宿の当り及ぶと云ふ。(何と神田氏の電話も10.00に大塚幸兵衛に紹介せよと云ふ)。故郷女医のうらゐはPeace"10427L.

5日 湖南の電話。午後逢ふ約束。14時出て放中子の逢字相侵にPK倍起ふ至と同率。近接に
湖南の電信が出来た。中子用中修反去真に達し。近接に散髪。半紙買ひ。挑各で。地方
研究法「外華語辞典」等以て。徳庵に筆と墨汁買ひに帰る。かか子に permanent-
wave かかし（小區給子に寄）。郡山古枝・堀内生（の食物入る）云々。山下夫人の扇や書格の入
装（と云ふ）。八木嬢の list. 夜披露宴。席札書く。

6日 更中あつてF77発執。8.00起つて泊へする中、10.00にわづ、修紀子の着附す秋、颯へから10.25
おしきた。佐吉又で下車。林お母に訪ね、玄園に立話、500圓を渡し、出ておろくお母に防おし不在、
やむなく高松板宮司宅へ中を道子嬢の案内で、帰つて火鉢の火を入るを、しほして夢中、何人
役不要にて案、すてて寝て、夜更の紹介すお、用中修氏、北野^兄君、蒲田洋装とtaxiにて
芳村会館へから、金く席去来せず、金庫に20、15.30まで席らしくおし、帰客来り、前のお

友人のついでにその中へ始む。早島を一夜、橋を第2夜、上田 部長、前川 嬢の招待で
しよと祝電披露すは、~~橋~~^橋部ををわかせし。part-wine, coffee, sandwich もさ出し
もね〜して苛立し。無夢 17.00 此種徳治文の「喜歌」のすみ、所部を婦を還りし。湖を
君のたぐひのうに月、情れば、腹中一時に出。沢田とよか入寮の橋、大塚の夢見
出席す、わいのわい存に挨拶し、至君。沢田入寮の了解をなす、わいのわいの
す(生解ひをり)。わいの嬢、わいの〜とわいのし。湖をへ電話でわいのをのり。
元々社の上、雪白 3冊、僅か入内 1冊未切。

2月7日 土曜。1. 朝の散歩。16. 朝の散歩。2. 夜半。salary 520。活字。活字。西
国とPAの横Mocaのcoffeeの。西国朝任の碑井へ紹介の名新心。帰家は「新設
会」に於て。14. 角の松至純一へ keine 3版の印を催促書。

9日 朝 9.00 まで神田カネタツの店にゆく(金庫、宝物など同車。11月10日休校を告げし。)
各地下車、有見可なり。アノ、橋二つで Ideine 買ひて bus に乗って南校前。神田カネ
タツの屋敷路に案内してその色をせり。出て bus 待つ間 coffee を入れば「西條修造」
と云ふ。それから bus に乗る。寸量、京橋の西条路の上へ。双林 print の看板は山崎
氏。11日頃の会をする通にせし。中野印刷所へかき奥付廻ませ。11日発行。セビ
リヤなどと云ふ。山崎君と四條丸善隣へ和紙(毛紙)用と云ふ。taki にて帰れば
法王寺印書館伯父の電話あり。呼んで来ると云へた。山崎君の云々
でまた、筆友堂。人形師白居島「唐紙の巻安」(5.200元と100円)「大唐寺典(400)」
西田右一郎「漢文法要説」電ひに。三條正之氏何れも「李太白(70)」マニヤル語の研究
完(80)「雲」にて帰段。宮内省待ちたり。入浴夕食後話す。武蔵小学院校長の夜更け
雨は、日陰を去りて曇り出たり。明日由余へお礼す。

9日 会社へかき城平叔父の養生入寮の事へは適当でなければ入らず。帰て示(四保)松田
人より母君病氣をせむとの知らせあり。角川より昭和詩集再版。田中夫妻の博浦への旅行が視て待つ。

15. 午前、土産物を買った。お母さんへお礼をいれた。30分ほどで帰った。(お母さんがお父さんに「お眼鏡が壊れた。」と云った。)

2月10日 湖東への電信。11.00大阪駅1,2等待合室にて到着。足田親正の電信、明日研究室へ来ると云ふ(しかし体調で電信せし也)。10.30出て、梅田夫人への手紙を投函。大塚の夜来と云ふ。大阪駅にて11.00に10分前。新生命への手紙を森氏に届く。近日方向を話し、山中囁呼にて12.30頃迄は号7にて待つ。湖東へ乗る。武・披露宴の出替表を記す。11.45待合室にて12.00来し羽村が婦人platformへ去了。見送るべく、前回友人と同車。銀座方面より三本、山の中の女嬢に逢り、お茶をし、此後母君と湖東の三人にて段々食堂。かきフライを一つ、湖東の定替7.30を待ち、お茶母君へ伝ふ。日曜午後父君我家を訪ねてくる。初めて山本事務所に来たらしい(佐瀬君も可し)。coffeeのめで死産の立屋に付き、蓮全環⁷、日置町指⁷交わかし、催促し、大石とい各辞典⁷も注文し、麦山書米、随筆活訳馬琴(100)⁷、童話山房夜話女冊(180)⁷買ひ、之を芸芸館3月号⁷買ひて帰宅。桂木嬢、東恒子と云ふ。伊井針枝子お好境⁷、訂重⁷と南葉と。(山中横山薫との会ひも話あり)。浦上温泉、LR田入堂。大塚つゝん来ず。

11日 9.30 出て池田醫院へ午後9時往新田大。登校。正田嬢に12.30 来て24.50 時限の圧入作業の指示。鶴身陽子に電話。妹入りの礼あり。松井和子来り湖上と通いての医師紹介の礼也。相郎来り伊東詩碑の100円呈。今年嬢ちゃん高松に。やがて長沖氏来り足田生来り。相郎とP.H. 橋本と出て、別れ足田生と近鉄parlourへ44分。増和銀行買と繰戻出来。視えぬ省報。多段線。三條より山前へ電話。吹雪の中来て24分は休む。荒木2君来り。やがて佐田君来。去れは井上君来り4分30分。雪狐第7とつくと23分は才媛。戦後吟久石10冊来り。佐田君の3冊買はせ。14.30 まで話してtaxiに三條。戦まが下りて帰阪。梅田氏より婚礼の写真を、入浴。夜半まで眠らず。

12日 寒し。鈴山は5分ハキ。田中修氏より礼状。13.00 去れは又々電話。城平叔女蒼子と会い常務。なつかしかり近日常に連絡。来週月火の中心で24分。梅田。

14.30 樟郎の妹の会上、姉9日南村姓と云ふ。これ合へて帰れば在位田重良の父
と度電話云ふ。左にA Metan-gas の器具が来り、貸代7.500とgas 1.200と機械
500と。21.30 在位田の父の電話あり、明日の午後彼の家へ。中国の歴史の書を買ふと云ふ。

2月13日(日) 左院齋座。此^レとて去る。午飯^後に在位四重衣^を脱ぎ、上^へ衣^を着^けしむとて、
才^に土曜再来^のこと。魯國と塩谷温と出雲南之吉印^とこれ帰^り了。井上君^は三郎氏^に入^り就^き
後吟^みながら下^りた。又當時^に2月号と1月号と2月号と、ともに我々^が文を附す。15.30頃
東^へ出^で即德治氏^と之^れを、近^くにあり。湖女^は是^れより少^く度^にいふ。18.頃^に夫^れへ歸^りす。おれ^はこゝ
10.00と年憂^を3掉^り。夜中^に信氏^に報告^すか。佐渡^へ由合^せ。

4月10日 4.30起、信子起て7.00家へ。定期普覧の、7.45乗電車にて支那、三條の朱
井は、自乗車で来し山前君、此方山、此方山と云ふ事なり。11.00至7.00時間、このLion自動車
へ江馬訪め、来出勤、来て平中蔵主夫人訪ひ、支那館のカルネの話し、茶の会を有す。
双林paintへ帰れば、11.30、主の去来なり。吉野書房へ支那高島君待す。昼食くはせしむる
主の電話せし江馬と勤む。山前君の今日は休日と、引退して筆を、情熱と三位書
段書房で、南菰帖(70)成吉思汗の義経(30)病後已(120)雲々(45)等、理
して夕飯、中環に去る。伊豆夫人来り、近木廣子来り、近木は氣の病は、昨夜4/5に
て元と山口のし家へ往むと、中学へ転任ししと、
逢家の近くで、野村和郎のオサム君の逢ひ、10.00乗車し、茶の会を有す。
てしむ。大澤の娘と云ふ電話ありしと、吉野は
一村へ転去せしと、平凡社の方へ出。
16分)

(5日 大塚氏の電話。3月10日預金出後、松平のヒロコに答ふ。文芸2年Xの電話。明日10.00才の父君に研究室に答ふ。12.00才の父君に「文芸」の会に城へ報告、杉村先生に金5冊を申し、西條孝一、保田、野田、前川、安田、村上、短歌、中河、一、幹子、影山正治と10冊送り(160)。柳田の「山手」の子に電話せ、彦根蒲田の助防に下在。代理の1冊申し、大塚の野合一

文の先生と話し、塩見氏と大学へ行くは服部部長、席をはずす。天野忠と話し、服部氏、文学部をやること。受ける年報提出して、北の情 (30)、勤王 佐伯の現地研究 (140) 置いて前々印。朝日に推薦かく。山田新之輔の肉票のりし。佐田氏が批評かきく。吹雪瓢箪の山田ついで。小段で下り、堀内休業。busで生駒家の Madame と同乗。帰るは「秋後吟」をきく。浅野是、中河輝子、安田孝生の3氏の礼状。入浴。

2月22日 試験監督の登校。本学で工の時間午後10時22分。秋後吟 2冊、領収。電話かき学院事務室へ、4月15日分女史の庄野英二君宛手紙に、signをいれ、帰るは学院長秘書。礼として一封信とかわり来る。出て康力身2冊の呼ぶ名をいれ、すべて藤井有。大江叔母の5冊置く。佐村ウメ氏の下層観望をいれ。清水生呼の田中生呼の函へん中て話す。田中生事務10年と。とまに云玉とに出るが百済生と通ふ。とまに Mocaup の coffee。平岡生と4冊置く。共産主義勉強するといふ百済生と驚く。2冊と1冊とへて別れ、石塚君の「我々の時代 (100)」北の情 (130) 若き女性の心 (40) 山田清史 (60) 置いて帰る。大塚氏の電話。明日友人と松本の宿舎に会いと。東洋史研究13の5目、八本懐の list、岩崎昭信の10冊置く。藤野一雄君より中川いつじ君との2冊送る。河村純一 doctor の礼状。大阪文芸会で26日に会合と。指責のヒラオと3月31日初稿18頁。やはうそくし。(学校へ大井氏の電話あり、相野の紹介あり、今あやめ池に住まると)。

23日 岩崎 (55) 桐山、高垣、田中順二郎氏へ2冊づつ、包む。北の情 (33) 初稿、純へ元々社へ挿絵として送る。若き本学委員の友をいれ、岩崎昭信の10冊送る。田中。足田氏の電話。会ひに。午すぎ出て bus で天満橋の国立病院、松本一彦、病室の奥に室井夫人と学院中長榎君に紹介す。松本近に退院。電車にて相ひに山田新之輔の著作部への紹介あり。2冊置く。山田事務所に1冊置く。class 会ひに金55ときて

出。本橋へて帰宅。西川英夫の3冊置く。佐野の火とせと。足田懐の8冊。山中。今村の懐に村上英夫の威想。菊池淑子へ入るの礼状。角川氏 21,000-3150=17,850 沼生氏の卒業式後の謝恩会出席合せ。元々社へ初稿32冊置く。松井和佐子の序をいし中村斗志氏の coffee の礼状。佐田馬、沢井、高山、坂井、前田、梅子、藤巻、川崎、佐野、坪井の包む。

2月24日 9.00 登校。note 提出3冊かき。足田氏の2度電話集積して行くをいれ。寺の先生、秋後吟 1冊置く。2本を、南合へ申し。また来、2とはられしと。学院出、名簿をいれ見せ、その旨をいれ。島山吉備内氏の電話。それと要員同志へ入るに紹介ありと。北の情に答ふ。友の秋後吟は總集をいれはしと。中河輝子、秋後吟のむと。友に答ふ。まの草をいれ。report 提出し、明後日のみ。本村静子の電話。13.30 出て上。本村懐の卒業式への秋後吟をいれ。小段の三井銀行へ17,850 受取る。堀内氏の男とせと。(上。天満橋にて 苗族と輝子 (80) 寄る)。小段の bus を降り、道路工事の近く歩くと。14 時佐田子田崎の学園へ中へ小学校。西月1250。入塾時の寄附3,000。大より経費をいれ。経費の上の礼状をいれ。元々社へ技術 80p. 指責をいれ。

25日 9.30 藤井孝へ中へ佐田子集をいれ。郵便局、1冊 (160) と西川の3冊 (32)。その他郵便君に預め、会合へき。城平叔父の会ひ、salary 請求書に印してき、原君と話し。bus で天満橋の安堂寺の山下銅葉へき。益子島船不在。秋後吟 1冊置く。佐田子井合にて佐野氏と会ひ。自井の退院会を3月26日 (土) と定む。佐田君と訪ねて話し。山田生と、安田生と、会ひ。視して1冊置く。出て大阪の会合に佐田訪ねる。同君と2つ。市電にて荒木利夫を訪ねて話し。地下鉄にて P へき。河東定、11時ほど佐田君と。君の電話にていし。東京へ。P へき。交差点で中川は鶴之陽と会ひ。話し。古く、P へき。紅花のて取て佐中社に会ひ。秋田の仲人に成功せし。話し。東洋

して来ると、高橋君の寄附は不在。駅前で25分あり、電話を八木君にかけ、2度と来ると云ふ。42分報警。土井君に20冊返す¹といひ、ついでに向ふ。2冊15分、尾の方へも入らず。(棒打に2回電話し、父へ18分の申付、と書いておいた)。

3月20日(日) 眠し。7.30 家を出て2部面接した。長沖氏に来た。三芳氏^の院を^に李白[?]。
長沖氏は雲か。銀次君の前山氏の李白[?]と野崎君に施すやうなの。半田氏も京都
美術と大阪堂藝大と通つて。15.047人、受験生が通す。文者は15人。白井家へ寄ら
ば三郎君あり。高倉家へかす。医師会にわづらせと。新しい走と云ふ bus に上り、竹崎[?]
(30) 置の近鉄をへて帰る。上田阿津子へ市教委、試験通つて。高野敏子エエ母君が
入院し、齋藤はるが妻が妊娠し。松重一秀夫人の西村定生の訃しと。

21日(土曜日) 佐子の入試結果の知らせについて。東夫人に電話し娘について院長のこころ
 やけと云ふ。12.22に佐子帰来。ハナキ嬢来。エナは方々エナはつね井夫人のロ
 リ嬢。娘を極度ハナキと云はれし。Ainslip 2 鏡も来。松井家へやち新石敷の
 写真も来。13.30 5 丁の田代昭彦村の建築の佐子出され。ハナキ嬢と出て、主橋
 より松平ハナキ 室井美佐子氏わかれ出され来しと云ふ。此處を云ふ。松平ハナキ
 10.00 まで云ふ。帰来は東家の電話あり。エナは方々南村の院長と云ふ
 予算会河の所まで来てと云ふ。室井夫人の足元は 3,000 と洋服也。● 12.10.00
 ③ 本村三子氏より 8 月 4 日 2 日。中山ついで君より、新橋分' 買ひ。佐子静子氏より、本村
 三子氏と、柴田三馬、聊齋志異研究' 買ひ。

22日 家書。⑦近畿民権学会の4月10日天理考考館思學と。松井信子嬢ハ本嬢の代理として
5月まで今の仕事をやられぬ故、此を以てお断りす。4月8日よりハチムキで遊ばす。午後開生功天
氣より明後日來り。

236 午後も雨。家居。~~東京~~ 本日の重美の工入式の南原村。実方氏の会合も、塩谷滋謙氏の会合もどうも如何に。夜小林千金との電話で済む。川崎の戦後吟

受取。吉野の前より前川氏の御下生甲斐を感じて。田中昭二郎君より勸誘され、
學芸部へ入った。幸せなり。

3月24日 前山氏より「詩人としての高島」についてお礼の状をいただきました。八木君より4月5日まで予定は確定と。午後去て会社、ゆく途中父つかまへ、日記へ「秋後吟」しうやくと書く。会社へ月給の請求書出し、オナ子落第と書く。去て片町への国立病院、松平夫妻におまへ「返事は代りの品々」と。去て朝日、山田氏の補い巻白2冊あり。後南条夫と出て喫茶、高尾書店に9.90支払ひ、地下鉄、高野線にて乗車、北野家の父居母居の昭二郎君の手紙を見せられ、「最近来て飯子へ旅行靴、我々のneck-tie贈り物」。高野飯子の参り、busまで送り（蕎麦屋の辻吉中へ預託）、遠里や野橋で下車、十野飯子訪へば見ゆ君もいて、要阻滞すると。次之平へのbus、上りて夕台、鵜摺へと帰る21.15。元々社への後記の校正。（高尾の近頃世評「字彙版150」）。
25日 極早の電話、妙なりと放心して。東丈人の電話、そのよう予算会議にかゝるといふこと。開きの中へ行く。開利枝末3。鬼界谷の座なり、10人兄妹の末娘と、入学後しばらくは遊ばすといふこと。chocolate贈り。鎮摩の土井一正氏より在席なくお返ししたく得たと。アサギン様から回りの仲情熱い心の誠意を感じて了と。夜八木嬢の電話、あつて連れて来ると。池元峰崎の父初藏（福江市赤島町）への礼状。

26日 松井信子氏より電話。電話料。乙並44157あり八本嬢つれて来ると。梅子も電話するは。在る。堀内氏一氏より来ると。角川より486-172=414(昭和詩集⁷再版印税)。佐木寛幸氏より、前川氏の文見ると150。西条寿一より¹はいつ詩人の全集と云々と。乙余等より林・岩崎昭昭の会つた。承知せよと。岩崎より¹破内道悟詩集出せと云、4月2,3,4の中へ来ると。足田紀子より~~松~~縁語解説したと。15:30 堀内氏一君来り夕食をべてく。乙、直後宮内正都君来り caramel 食す。

27日(日) 松鉄外とて八本嬢来り。昨日より来り⁷受取つて。西川三江より取附けし。石田晋

子生(2部2年)57。4月30日学院同窓会総会と。

3月28日 梅子に電話。八木嬢の行かたに再答。湖東に電話。東京より帰った。14.00に答
え。七尾内良一氏の訃状。里井、永井 2氏 塾海にハハ。13.00 出て湖東へハハ。梅子とわ
せしで貰く小。防衛大学へ^星郵する。新と久月也。4月帰りました。出て梅子の会を1000
返し。毎日ハハと野口会。新後吟⁷評書をし来るがらす。雨中帰る梅子の引端で雪
炊飯。八木嬢19.00来りて明日来るといふ。

29日 朝城平叔父に電話あり。マミの就職と推してハハに言ひ。不承。八木嬢
に電話した。11.30 現は来て西にハハに言ひ。女中の方は大丈夫。17.00 帰る。中。
明日新報出。ハハに言ひ。録田先生にハハに言ひ。新後吟⁷は甘し。新
藤田先生にハハに言ひ。一言ハハに言ひ。森三平はハハに言ひ。岩崎先生にハハに言ひ。
うと。

30日 八木嬢9.00来り11.00 まで来て帰る。入会費⁷を67の奨励。酒の効は不満と。面白。
竹田先生にハハに言ひ。和田先生にハハに言ひ。5月同窓会に出張と。塾田先生にハハに言ひ。田中先生
にハハに言ひ。梅田先生にハハに言ひ。新後吟⁷は甘し。田中先生にハハに言ひ。午後出て。梅子
は甘し。訪ねてハハに出張。ハハに言ひ。学院の卒業はハハに言ひ。第(崇善大正)のハハに言ひ。学院
同窓会にハハに言ひ。1冊着上りて遅くハハに言ひ。今ハハに言ひ。府内ハハに言ひ。坪井在席。ハハに言ひ。
味方ハハに言ひ。明日面会^今に電話。ハハに言ひ。夜相後。新後吟⁷の1.000をハハに言ひ。三巻ハハに言ひ。
華師の講演にて亀井勝一氏は明日ハハに言ひ。梅田ハハに言ひ。高尾ハハに言ひ。蒙古通(300)
路外ハハに言ひ。20) 買。華安先生にハハに言ひ。今ハハに言ひ。支佐吉高尾ハハに言ひ。100
主に電話にて通事ハハに言ひ。(坪井ハハに言ひ。学院同窓会20日ハハに言ひ。人事決定ハハに言ひ)。

31日 8.50 梅田に電話してハハに言ひ。面会ハハに言ひ。2,3日面会ハハに言ひ。城平叔父。府内
ハハに言ひ。坪井ハハに言ひ。ハハに言ひ。上ハハに言ひ。前ハハに言ひ。中ハハに言ひ。夫人ハハに言ひ。夫人ハハに言ひ。
京都。新ハハに言ひ。1冊本主(坪井ハハに言ひ)。野崎先生にハハに言ひ。梅子ハハに言ひ。梅子ハハに言ひ。
梅子

新し。大阪へハハに言ひ。途中ハハに言ひ。会ハハに言ひ。今新報ハハに言ひ。史跡会ハハに言ひ。岩崎
先生ハハに言ひ。15.00 までハハに言ひ。漢野先生にハハに言ひ。ハハに言ひ。1900年に編入ハハに言ひ。
ハハに言ひ。西岡先生にハハに言ひ。梅子ハハに言ひ。梅子ハハに言ひ。梅子ハハに言ひ。梅子ハハに言ひ。



三菱製紙株式會社抄造洋紙使用